

第4回さっぽろ連携中枢都市圏関係首長会議

会 議 録

日 時：2022年8月26日（金） 午後3時開会
場 所：札幌グランドホテル別館2階グランドホール

1. 開 会

○司会（小角まちづくり政策局長） 皆様、大変お待たせいたしました。

定刻となりましたので、ただいまより第4回さっぽろ連携中枢都市圏関係首長会議を開催させていただきます。

本日は、ご多忙の中、ご臨席を賜りまして、誠にありがとうございます。

本日の進行を務めさせていただきます札幌市まちづくり政策局長の小角でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日の進め方でございますが、お手元の次第でございますとおり、札幌市より、昨年度の連携事業の実施状況や、本年4月に変更させていただきましたさっぽろ連携中枢都市圏ビジョンの概要のほか、今後のスケジュール等についてご説明させていただきます。また、本日の会議におきましては、札幌市から議題の提案も予定しております。その後、皆様と活発な意見交換を行わせていただければと考えているところでございます。

それでは、開会に当たり、札幌市長秋元克広よりご挨拶申し上げます。

○秋元克広札幌市長 皆様、こんにちは。

大変お忙しい中にもかかわらず、ご出席をいただきまして、ありがとうございます。

また、本日は、北海道から北村地域振興監にオブザーバー出席をいただいております。お忙しい中、本当にありがとうございます。

また、関係者の皆様にもお集まりをいただいております。ありがとうございます。

さて、本会議でございますけれども、12の市町村でさっぽろ連携中枢都市圏を形成させていただいて、その首長の皆さんにお集まりいただき、様々な議論を進めてきたところでございまして、今回で4回目になります。平成31年3月にさっぽろ連携中枢都市圏のビジョンを策定いたしまして、平成31年度から令和5年度までの5年間で第1期として、圏域の目指す将来像「住みたくなる」「投資したくなる」、「選ばれる」さっぽろ圏域の実現ということで、皆さんと一緒に取り組んできたところでございます。

現ビジョンは、来年度末で1期目が終了ということになっております。そういう意味では、令和6年度からの次の計画、ビジョンの策定作業を進めていきたいと思っております。後ほどスケジュールなどにつきましてお諮りさせていただきたいというふうに考えておりますけれども、さっぽろ連携中枢都市圏という形で広域的に皆様方と様々な取組を行い、圏域全体のサービス向上、そして地域の魅力を向上させていこうということでございます。本日は、これまでの取組などにつきましてご報告をさせていただきますとともに、次の計画に向けてのスケジュールなどをお諮りさせていただきたい、そして、目指すべき圏域の将来像ということをご共有しながら、様々な事業を一緒に進めていくことができればというふうに思っているところでございます。

限られた時間ではございますけれども、忌憚のないご意見を頂戴いたしまして実り多い会議となりますよう、皆様方のご協力をぜひお願い申し上げたいと思います。

本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2. 資料説明

○司会（小角まちづくり政策局長） それでは、次第に入ります前に、配付資料の確認をさせていただきます。

本日、お手元にお配りしておりますのは、会議次第、出席者名簿、座席表、そして、討議資料1から7でございます。

お手元に不足はございませんでしょうか。

本日のご出席者様につきましては、大変恐縮ではございますが、配付させていただきました出席者名簿をもってご紹介に代えさせていただきますたく存じます。

3. 議題提案

○司会（小角まちづくり政策局長） それでは、議題に基づきまして会議に入りたいと思います。

まずは、札幌市まちづくり政策局政策企画部長の浅村より、資料に沿って、昨年度の連携事業の実施状況や、今年度変更いたしましたさっぽろ連携中枢都市圏ビジョンの概要のほか、今後のスケジュール等についてご説明させていただきます。

浅村部長、よろしくお願いいたします。

○浅村政策企画部長 政策企画部長の浅村でございます。

お配りした資料に基づきまして、順にご説明させていただきます。

まず初めに、資料1、さっぽろ連携中枢都市圏の推進体制に関する要綱をご覧ください。

本会議につきましては、第1条の末尾でございますとおり、さっぽろ圏の持続的な発展に寄与することを目的といたしまして、第2条に基づき、開催させていただいておりますので、ご報告をさせていただきます。

次に、資料2でございます。

さっぽろ圏における昨年度の連携事業の実施状況等についてご説明いたします。

上段にありますとおり、昨年度につきましては、さっぽろ連携中枢都市圏ビジョンに掲げる全61指標のうち、達成済みとなったのは7割程度にとどまったものの、新型コロナウイルス感染症の影響を除けば約9割が達成済みとなっております、コロナ禍において良好な水準にあったものというふうに考えてございます。

また、中段でございますとおり、達成済みの主な事業といたしましては、連携した企業誘致の推進や創業の促進のほか、保育サービス向上に向けた取組の推進、さっぽろ圏人材育成・確保基金の造成などがございます。

ただいまご紹介を差し上げたそれぞれの事業の具体的な実績について補足をさせていただきます。

まず、連携した企業誘致の推進につきましては、昨年5月に、さっぽろ圏といたしましてパシフィコ横浜の産業展示会に共同出展をいたしまして企業誘致の推進を図っておりま

す。また、さっぽろ圏設備投資促進補助金の運用といたしまして、恵庭市様、千歳様に立地する案件の申請がございまして、今後、補助適用予定となっております。

次に、創業の促進につきましては、スタートアップとの協働によりまして、圏域内の地域、行政課題の解決を目指す行政オープンイノベーションプロジェクト、Local Innovation Challenge HOKKAIDOにおきまして、さっぽろ圏を対象といたしました部活の地域移行を実現するマッチングプラットフォームの試行導入や、南幌町様を対象といたします次世代型の教育プログラムの実施などが採択されました。

また、ポータルサイトを活用した事業継承のマッチング支援を行いまして、小樽市様、岩見沢市様、江別市様、北広島市様の4組が具体的な継承手続に向けた交渉を行ってございます。

また、保育サービス向上に向けた取組の推進といたしまして、保育士確保のための連携した取組に関する会議を開催いたしまして、また、圏域内を対象といたしました保育士合同就職説明会には、千歳市様と当別町様からも事業者の参加がございました。

さらに、雪堆積場の共同活用に関しましては、例年と同様に北広島市様と石狩市様におきまして雪堆積場を開設させていただいたことに加えまして、作冬の2月の大雪に対応するために、石狩市様におきまして2か所の緊急用雪堆積場も開設させていただいております。

加えまして、さっぽろ圏人材育成・確保基金の造成につきましては、目標額の約3倍である約3,000万円のご寄附をいただきまして、小樽市から長沼町まで、圏域全体を対象にSDGsに資する人材の育成や、奨学金返還支援を通じた人材の確保などの事業を含むさっぽろ圏「ひとつくり」プロジェクトを展開してございます。

一方、MICE誘致の推進や、にぎわいの創出、職員研修等の合同実施など、いわゆる人が集まるという要素が強い事業につきましては達成がかなわなかったものもございしますが、今年度は各種イベントも開催されるようになっておりますことから、これらの事業についても目標値の達成を目指して推進することができればと考えてございます。

なお、職員研修等の合同実施につきましては、新採用職員後期研修へ、新篠津村様を含む圏域7市町村から職員のご参加をいただいております。

最後に、下段にございます三つの役割における重要業績評価指標につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、数値が悪化してございますが、その緩和ないしは維持・向上に向けまして、引き続き皆様のご協力を賜ればと思っている次第でございます。

次に、本年4月に変更いたしましたさっぽろ連携中枢都市圏ビジョンの概要について、その変更点を中心にご説明いたします。

資料3をご覧ください。

まず、右下段に目を移していただきまして、今年度の連携事業としては、昨年度より5事業追加の計56事業でございまして、事業費見込額全体といたしましては、昨年度より

約9億円程度増加し、約65億円となっております。ご参考までに圏域形成初年度の2019年度と比較して申し上げますと、連携事業数は40事業から56事業に増加、事業費見込みは44億円から5割程度増加しておりまして、圏域形成以降、連携事業、事業費見込みともに着実に増加している状況でございます。

続きまして、裏面をご覧ください。

2022年度におきましては、右側に赤字でございますとおり、子育て環境の向上に向けた取組の推進、デジタル技術を活用した住民サービスの向上に向けた取組の推進、鳥獣対策等に関する取組の推進、森林整備等に関する取組の推進のほか、図書館間のネットワークに関する取組の推進の5つの連携事業を追加させていただき、その他の連携事業の内容についても所要の変更を行ったところでございます。

このうち、子育て環境の向上に向けた取組の推進につきましては、昨年度、南幌町様から議題のご提案がございました圏域内における子育て環境の整備の新しい取組について、子育て世代にとって住みやすい圏域を推進するため、今年度より連携事業として位置づけさせていただいたものでございます。また、恵庭市様からもご提案をいただきました緑化フェアの開催をきっかけとした域内観光の促進については、域内の魅力を発信、再発見することを目的にいたしまして、さっぽろ圏フォトキャンペーンとして、北海道ガーデンフェスタ2022と連携して実施してございます。

続きまして、資料4でございます。

さっぽろ圏巡って買って応援キャンペーンについてご説明いたします。

こちらにつきましては、一昨年度の本会議におきまして、各首長様からのご議論にも上がりました道の駅などの活用も含め、先ほどご紹介を差し上げました連携事業、創業の促進の一環といたしまして、スタートアップ企業と協働し、レシート買取りアプリを用いた周遊活性化策を企画させていただいたものでございます。

道の駅などで購入したレシート画像をアプリ上で登録して応募できるさっぽろ圏巡って買って応援キャンペーンを、昨年11月から今年の2月まで展開させていただきました。応募件数は606件と道内外の多くの方からご応募いただきまして、圏域内の周遊活性化及び消費促進に寄与したものと考えております。

参考といたしまして、登録されたレシートが最も多い施設を連携市町村ごとにまとめておりますので、ご参照いただければと存じます。

本キャンペーンにつきましては、応募いただいた方に圏域内の各市町村の特産品等をプレゼントする内容となっております。キャンペーンの告知、広報に加え、特産品のご提供など、皆様には多大なるご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

続きまして、資料5に移ります。

最後になりますが、さっぽろ連携中枢都市圏における今年度のスケジュールについてご説明いたします。

上段にございますとおり、今年度におきましても、昨年度同様、本日の首長会議のほか、

引き続き、定期的な実務者会議やビジョン懇談会での議論等を踏まえながら連携した取組をさらに推進するとともに、さっぽろ連携中枢都市圏ビジョンについての必要な変更を行ってまいります。

また、中段にございますとおり、現行のさっぽろ連携中枢都市圏ビジョンは2023年度末をもって計画期間が終了することから、来年度以降、第2期ビジョンの策定に向けたご協議等をさせていただければと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

このほか、下段にございますとおり、札幌市におきましても、副市長を筆頭といたします札幌市連携中枢都市圏推進本部を中心にいたしまして、さっぽろ圏における取組を全庁的に推進いたしまして、引き続き、連携中枢都市としての役割を積極的に果たしてまいりたいと考えてございます。

私からの資料説明は以上となりますが、本会議におきましては、冒頭にもアナウンスいたしておりましたとおり、この後、本市からの議題提案と報告事項もございますので、引き続きよろしくお願い致します。

私からは以上でございます。

○司会（小角まちづくり政策局長） 続きまして、お手元の資料6に基づきまして、議題の提案に移らせていただきます。

初めに、札幌市の秋元より議題をご提案いたします。

○秋元克広札幌市長 それでは、私のほうから、パートナーシップ宣誓制度の自治体間連携についてご提案させていただきますので、その趣旨についてご説明させていただきます。

スライドでも投影させていただいておりますので、随時、お手元の資料とともにご覧いただきたいと思っております。

1枚おめくりをいただきますと、こちらに札幌市のパートナーシップ宣誓制度を記載しております。

性的マイノリティーの方々、つまり、これまで典型的とされていた性の在り方にとられない方々の思いを受け止める取組として、平成29年6月にパートナーシップ宣誓制度というものを開始いたしました。今年の7月現在で、160組の方がこの制度をご利用しております。同様の制度につきましては、江別市さん、函館市さん、そして北見市さんで導入されているところであります。

この制度はそれぞれの自治体で定めておりますので、例えば、転居の際、市外に転出した場合には、一旦、宣誓されたものを返納いただいて新たな自治体でまた手続をしていただく必要がございましたけれども、こういった不安、負担というようなことをできる限り簡素化できないかという要望が寄せられていたところでございます。

そういうことで、今年の6月1日から北見市さんと連携を開始いたしました。性的マイノリティーの方々の負担軽減のために、双方の市への転居時の手続を簡素化しようというものでございまして、お持ちの受領書などは継続して使用できるという取組であります。具体的には、3ページ目にございますが、連携前につきましては、例えば札幌市から北見

市に転居された方々がいらっしゃれば、札幌市での書類をお返しいただいて北見市で改めて手続をしていただくことになるわけでありまして、連携によりまして、転居前に北見市に行きますということを事前に申請していただくことで、自治体間で連絡を取ってご本人の転居後の手続を不要とするものであります。これは、北見市から札幌市への場合も同じ形で相互に活用している状況であります。既に6月から、それぞれの市で発行されましたパートナーシップの宣誓書の受領書でありますとか受領カードを継続して転居後の市で使用することができるという取組を北見市さんとさせていただきました。

性的マイノリティーの方々への理解が社会全体に広がっていくということが当事者の方々の思いでもありますことから、当然、今は、その制度を導入する、しないも含めて各自治体ごとに違いがあると思っておりますけれども、制度の導入でありますとか、こういった都市間の連携などにつきまして、今回の会議を契機として、お互いに協力し合いながら情報交換あるいは連携に向けた協議などを進めていければなど、このように考えているところでございます。

私からは以上であります。

4. 報告事項

○司会（小角まちづくり政策局長） 続きまして、札幌市からの報告事項といたしまして、資料7に基づきまして、これまでのさっぽろ連携中枢都市圏の取組についてご説明させていただきます。

浅村部長、お願いいたします。

○浅村政策企画部長 それでは、資料7に基づきまして、これまでのさっぽろ連携中枢都市圏の取組についてご説明をいたします。

先ほどの説明とも若干重複する部分がございますけれども、資料に基づきましてご説明させていただきたいと思っております。

現在のさっぽろ連携中枢都市圏ビジョンも、来年度に最終年度を迎え、次期ビジョンの策定を控えておりますことから、本日は、総務省の要綱に定めます三つの役割、圏域全体の経済成長のけん引、高次の都市機能の集積・強化、圏域全体の生活関連機能サービスの向上という柱ごとに、連携市町村の皆様とこれまで連携させていただいた主な取組の一部についてご説明させていただきます。

初めに、圏域全体の経済成長のけん引という点でございますが、上段でございますとおり、連携した企業誘致の促進ということでは、先ほどもご説明いたしましたが、小樽市様、岩見沢市様、江別市様、当別町様と企業立地フェアに共同出展をしております。

また、下段でございますが、創業の促進ということでは、圏域で抱える行政課題や地域課題をスタートアップ企業との協働により解決を目指すプロジェクト、Local Innovation Challenge HOKKAIDOにおきまして、圏域全体の課題のほか、千歳市様、新篠津村様、南幌町様の地域課題を採択させていただいたところでございます。

なお、右側にごございます画像は、報道でも多く取り上げていただいておりますが、今月、南幌町様の生涯学習センター「ぽろろ」で開催されました、道内外の大学生が地域の子どもたちと触れ合う教育プログラムで地域の人材育成につなげることを目指す、あしたの寺小屋の実施風景でございます。

次に、新製品・新技術開発のための支援、先端技術の活用に関する支援、生産性向上に向けた支援についてでございますが、札幌市ものづくり支援事業の成果の主なものとして、プロダクトデザイナー派遣事業の中で、当別町の辻野商店様が、子育て世代など健康に気遣う世代をターゲットといたしました当別産の大豆を使ったお菓子の新商品を、そして、恵庭市の岡田建具製作所様が、デザイン性と機能性を併せ持ったパテコと名づけられたオリジナルのパーティションをプロダクトデザイナーとともに開発いたしました。

また、小樽市の株式会社コスモジャパン様は、製造業 I o T 導入ファーストステップ補助金をご活用いただきまして、クラウドを利用した生産管理システムを導入されました。

また、共同プロモーションや観光資源の活用等の推進でございますが、圏域の観光部門が連携した協議会、さっぽろ連携中枢都市圏観光協議会におきまして、ウェブなど様々な媒体を通じて圏域の各市町村の魅力を一体となって国内外に発信し、圏域における観光客を増加させ、圏域全体の観光消費増大を目指してございます。

続きまして、高次の都市機能の集積・強化では、救急医療の維持・向上に向けた取組の推進といたしまして、24時間365日、住民からの救急医療相談に看護師が対応する電話による相談窓口、救急安心センターさっぽろを運営しておりまして、広域化を推進しているところでございます。

圏域からは、石狩市様、新篠津村様、当別町様、南幌町様にご参加をいただいているところでございます。

次に、消防の連携・協力の推進でございますが、こちらは、市町村単位で実施している消防指令業務を、札幌圏6消防本部で共同運用するため、指令システム等を更新整備するものでございます。このことによりまして、効果的・効率的な応援体制の確立、整備費用の削減と人的効果による消防力の強化を進めることができ、市民サービスの向上が図られたものと考えてございます。

江別市様、千歳様、恵庭市様、北広島市様、そして石狩市様、当別町様、新篠津村様で構成される石狩北部地区消防事務組合様と共同で取り組んでございます。

また、下段にごございます雪堆積場の共同活用でございますが、土地の有効活用のために、札幌市が管理する雪堆積場を圏域内に開設し、排雪の受入れを行っておりまして、昨年度も、前年度と同様に、石狩市様、北広島市様の土地をご提供いただきまして開設させていただいたところでございます。

なお、昨冬は、24時間降雪量が札幌管区气象台の統計開始以降の最多記録を2度更新するなど、平年を上回る状況となりまして、緊急用の雪堆積場を石狩市様に開設させていただいたところでございます。

次に、圏域全体の生活関連機能サービスの向上におきましては、東京都千代田区大手町にございます札幌UIターン就職センターの広域化を推進いたしまして、さっぽろ圏出身の方であれば利用登録が可能となっております。現在、小樽市様、北広島市様、江別市様、当別町様、恵庭市様、長沼町様、千歳市様、石狩市様、岩見沢市様ご出身の合計81人の方々にご登録いただき、ご利用いただいているところでございます。また、昨年度は、ご登録者のうち、勤務地が江別市様、恵庭市様、千歳市様、北広島市様、石狩市様となる方の就職が決定したところでございます。

下段にございます公立夜間中学の共同活用でございますが、令和4年4月に開校いたしました北海道初の公立夜間中学、札幌市立星友館中学校について、入学対象者をさっぽろ圏の住民の皆様に拡大してございます。

開校初年度の今年度につきましては、小樽市様、江別市様、千歳市様、恵庭市様、北広島市様から合計8名の方が入学し、在籍されているところでございます。

次に、鳥獣対策等に関する取組の推進でございますが、こちらは、本年度から新規連携事業化したものでございます。ヒグマは、市境に関係なく河川や水路を伝って市街地に侵入すると考えられておりまして、行動圏も雌が数十キロ平方メートル、雄が数百キロ平方メートルと非常に広範囲に及んでいることから、近隣市町村との連携が重要であるという認識に立ちまして、ヒグマ出没情報の共有や迅速な出没対応態勢の確立など、近隣市町村との連携を図ることとしたものでございます。

本年5月には、ヒグマ及びエゾシカ研修会を対面で実施いたしまして、岩見沢市様、江別市様、恵庭市様、石狩市様、新篠津村様、南幌町様、長沼町様の担当部局の職員に参加いただいているところでございます。また、職員研修等の合同実施におきましては、新採用職員後期研修を集合研修により実施いたしまして、圏域からは江別市様、千歳市様、恵庭市様、北広島市様、石狩市様、当別町様、新篠津村様から新規採用職員が参加されたところでございます。

以上、簡単ではございますが、これまでのさっぽろ圏での主なものについて説明させていただきました。

引き続き、札幌市におきましても、さっぽろ圏における取組を全庁的に推進いたしまして連携中枢都市としての役割を積極的に果たしていきたいと考えておりますので、これまでと変わらぬ皆様のお力添えのほどをよろしくお願いいたします。

私からは以上でございます。

5. 意見交換等

○司会（小角まちづくり政策局長） それでは、これより意見交換に入らせていただきたいと思います。

今回は、本市からご説明申し上げました取組概要、提案議案、報告事項等に対するご意見をいただければと思っております。また、各市町村における現状の課題、今後のさっぽ

ろ連携中枢都市圏に対するご期待等もございましたら、ぜひご発言をいただければと存じます。

なお、議題のご提案をいただきました札幌市秋元市長につきましては、適宜、ご発言を賜ればと存じます。

それでは、大変恐縮ではございますが、まずは、小樽市の小山副市長様から、時計とは逆回りに、順次、ご発言をいただければと思います。

小山副市長様、よろしくお願いいたします。

○小山秀昭小樽市副市長 皆さん、こんにちは。小樽市副市長の小山でございます。

本日、市長の迫が公務ため出席できませんので、代わりまして、一言、発言させていただきます。

初めに、秋元札幌市長をはじめ、本日お集まりのさっぽろ連携中枢都市圏の関係首長の皆様、そして北海道総合政策部の北村地域振興監には、日頃より大変お世話になっております。この場をお借りして、感謝を申し上げます。

小樽市は、令和元年度から、ここにお集まりの皆様と一緒にさっぽろ連携中枢都市圏に参画し、圏域全体の発展に取り組んできたところであります。さっぽろ連携中枢都市圏は、圏域人口が全国の連携中枢都市圏の中でも最大規模であり、企業や大学、研究機関などが多く立地していることから、皆様との連携を通じて多くの情報を得られることが魅力と考えております。

先ほど、さっぽろ連携中枢都市圏の連携事業の実施状況やビジョンなどについて説明がありました。新型コロナウイルス感染症の影響により、一部、達成できなかった事業もありますが、多くの連携事業が実施されており、おおむね良好な取組結果だと言えるのではないかと考えております。

本市も企業誘致活動や観光プロモーションなどに協働して参加させていただいておりますが、こうした取組は、多くの自治体が連携することで、特に札幌市さんを巻き込むことでインパクトを与えることができますので、引き続き連携して取組を進めていきたいと考えております。

また、圏域の中長期的な将来像として、「住みたくなる」「投資したくなる」、「選ばれる」さっぽろ圏域が掲げられております。本市も、居住、移住、観光、投資などの面で選ばれるまち、持続可能なまちづくりを目指しておりまして、方向性が一致していることは大変心強いことですので、皆様と一緒に圏域全体を盛り上げてまいりたいと考えております。

本日提案がありましたパートナーシップ宣誓制度の自治体間連携についてですが、現在、本市ではパートナーシップ宣誓制度を導入しておりません。しかしながら、令和3年度に実施した男女共同参画に関する市民意識調査において、一定程度の市民理解が進んでいると判断しておりますことから、現在策定中の令和5年度を始期とする、仮称ですが、小樽市男女共同参画基本計画の施策として、多様な性の理解促進を位置づけ、パートナーシッ

プ制度の導入に向けた検討を進めることとしております。先行する自治体の皆様の状況も勘案しながら検討を進めておりますので、圏域での情報交換を図って自治体間の連携につなげていければと思っております。

最後になりますが、札幌市と同様に、本市は、今年、市制施行100周年を迎えております。また、来年10月には小樽運河が竣工してから100年ということもあり、歴史的景観の保全とまちづくりについて考える第46回全国町並みゼミを本市で開催することとしております。コロナ禍が収まりましたら、ぜひ、近隣の皆様にも本市に足を運んでいただければ幸いに存じます。

私からは以上でございます。

○司会（小角まちづくり政策局長） 小山副市長様、どうもありがとうございました。

続きまして、岩見沢市の松野市長様、よろしく願いいたします。

○松野哲岩見沢市長 岩見沢市の松野でございます。

札幌市様におかれましては、先ほどご説明がありました連携ビジョンの各取組をはじめとして、新型コロナウイルス感染症の拡大といった社会情勢や、さらには構成市町村の地域特性も踏まえつつ、圏域全体の視点から様々な課題への対応について中心的な役割を担っていただいております、改めて深く感謝を申し上げます。

全道的、全国的な人口減少が進む中であって、自治体間の広域的な連携は今後ますます重要になってまいります。こうした中で、さっぽろ連携中枢都市圏の取組は、岩見沢市のまちづくりにおいてはもちろんのこと、全国の他の地域からも大いに注目されているものと認識をしております。

さて、昨年度実施されましたさっぽろ圏巡って買って応援キャンペーンでございますが、圏域の消費活性化と周遊活性化のきっかけとなるとともに、圏域住民の方々に連携中枢都市圏の取組を知ってもらう上でも一定の役割を果たしたものと考えております。さらに、この取組は、連携事業の一つであるLocal Innovation Challenge HOKKAIDOから生まれた行政と民間企業との連携の一つの具体例でもあり、得られたデータの活用も含めて、こうした取組は今後の事業展開にも大いに役立てられるものと期待をしているところでございます。

また、先ほどご提案がありましたパートナーシップ宣誓制度でございますが、岩見沢市におきましても、令和5年の年明けに導入する予定としております。現在準備を進めているところでございますが、制度導入に向けましては、いち早く導入された札幌市さんや江別市さんをはじめ、皆様には、自治体間連携も含めましていろいろとご相談、ご協議をさせていただきたいと思っております。本市としても、ぜひよろしくお願い申し上げたいと思います。

性的マイノリティーの方々への理解促進につきましては、岩見沢市では、昨年9月に、市民や民間企業においても活用していただけるように、性の多様性に関するガイドラインを作成しております。本市におけるパートナーシップ宣誓制度の導入、運用に向けまして

は、やはり、並行して社会全体に対する啓蒙活動にもまだまだ取り組んでいく必要があると考えておりますので、この点につきましても重ねての連携協力をお願いいたしたいと考えております。

最後に、昨年度から新たに連携ビジョンに加えられました地域公共交通の維持・確保の取組について触れたいと思います。

この取組は、連携中枢都市圏における自治体間の議論をきっかけとしてタスクフォースが設置され、令和3年度から連携事業として位置づけられたもので、現在、石狩振興局さんを事務局として、さっぽろ圏全体を対象地域とした公共交通計画策定の作業が進められております。冒頭にも申し上げましたとおり、人口減少が進む中で自治体間の広域連携は重要性を増しております、こうした中であって、公共交通は、光ケーブルなどの情報通信基盤とともに地域間の連携を支える重要なインフラであると考えております。

しかしながら、現実には公共交通の利用者は年々減少しており、当市におきましても、将来に向けて地域住民の足をどのように確保していくかが大きな課題となっております。現在の公共交通網は、過去に、個々の交通事業者において、利用者の増加、言い換えれば収益性を前提として形成されたものがベースとなっております、人口減少と少子高齢化が進む中での持続性確保に向けましては、ある程度思い切った再編も必要になるものと考えております。

さらに、現在は、コロナ禍の影響により、これまで一定の収益を見込めた都市部においても収支が悪化し、そのことが地方路線にも影響を与えるなど、公共交通の維持・確保は社会全体の課題となっており、こうした課題に対しては広域で取り組んでいくことが必要かつ非常に意義があるものと考えております。

これからも、さっぽろ連携中枢都市圏の各市町村が持っている様々な資源、リソースを相互に活用して、圏域内外からの人や資源などの循環を活性化させながら、地域経済の活性化と住民全体のサービスの維持・向上についてのスケールメリットを生かした取組を進めていただければと思っておりますので、改めて、今後ともよろしくお願いいたします。

私からは以上です。

○司会（小角まちづくり政策局長） 松野市長様、どうもありがとうございました。

続きまして、江別市の三好市長様、よろしくお願いいたします。

○三好昇江別市長 江別市の三好でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、事務局を担当されております札幌市さんには、事業の取りまとめ、調整で様々な段取りをしていただき、順調に業務が進んでおりますことに、心から御礼申し上げたいと思います。

先ほどご報告がありましたが、これまでのさっぽろ連携中枢都市圏の取組の中で様々な事業の成果、取組状況が発表されておりますけれども、その中で、私も、さっぽろ圏であればこそできる、札幌であればこそできるという事業が数多くあると思っております。

特に、私どもが感謝申し上げたいのは夜間中学の件でございます。これは、それなりの人口規模がなければできない事業であろうと思っております。江別市からも1人が入学しておりまして、これまで学べなかったことを学べて大変喜んでおります。これは非常に素晴らしい事業だと思っております、改めて御礼申し上げたいと思います。

今後におきましても、市町村単独では対応できない事業、さらには、自治体連携によりまして圏域全体の発展につながる事業にこれからも取り組んでいていただけるように、我々も努力してまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

そこで、先ほど提案がありましたパートナーシップ宣誓制度について、1点申し上げたいと思います。

当市におきましても、本年3月1日から導入いたしまして、宣誓の実績も徐々に出ているといった状況で、これからということでございます。市から交付された受領書を窓口等で提示することで、これまで受けられなかった行政サービス、また民間でもサービスを受けられるという形になってまいりました。

そこで、提案の自治体間連携につきましては、これまでも先行されて実施されている札幌市様、さらには、今後導入されるということでしたけれども、函館市様、さらには北見市様と連携をしながら進めてございますが、私どものほうで認識しておりますのは、やはり、内容によりましては地域の事情がございましてなかなか統一を取れないといった事業がございまして。当然、行政サービスの中でできるもの、できないものがありまして、ちょっと懸念をしておりますのが、札幌市さんでできて、なぜ江別市でできないかと言われる事業について、その説明がなかなかできないという問題もあります。連携することはよろしいのですけれども、その前段として、そうした基本的なところを調整するための連携、打合せというのがどうしても必要ではないかなと私は思っております。

それから、もう一つは、この制度がどんどん進行していくことはよろしくて、多分、望ましい姿だと思いますが、やはり、市町村によって、中には難しい市町村もあるのではないかなど。そこに加入する、導入しなければならないということで、それに対する負担感が出ないかなというところをちょっと心配しておりますので、その点も今後の連携の中でご配慮いただければなと思っております。今回、連携を進めることは、受領書を受けられ方にとってサービス向上につながりますので、これは大賛成でございますけれども、そういう意味での配慮も必要ではないかということを申し添えておきたいと思っております。

これからも、どうぞよろしく願いいたします。

○司会（小角まちづくり政策局長） 三好市長様、どうもありがとうございました。

続きまして、千歳市の山口市長様、よろしく願いいたします。

○山口幸太郎千歳市長 今日、どうもありがとうございました。

初めに、さっぽろ連携中枢都市圏の一員として、この圏域の果たす役割は大変大きいと思っておりますし、これからも千歳市がお役に立てるような取組を進めていきたいし、いかなければならないと思っております。

今、コロナの収束がなかなか見えません。また、世界的に各地で起きている異常気象など、こういったものがこれからの私たちの生活や産業などに対していろいろな変化をもたらすことはもう必至でありますので、そういった変化にどうやって対応していくかということはこのさっぽろ連携中枢都市圏で考えていくことが、北海道の将来をリードしていく大きな観点、論点になるのではないかと、このように思っているところであります。

特に、今、DXとGXはこれからの大きな課題であります。このことは、世界規模であり、また人類的な課題でもありますから、行政の大小とか国、地方という枠組みを超えてしっかりと取り組んでいかなければ市民生活を守れませんし、また企業活動も促進できないということでもありますので、これは大きなテーマだと思っています。

GXは、自治体のDX化を含めて、今、こういった連携ができるかということによって企業の皆さんとさまざまな組立てをしているところであります。

それから、カーボンニュートラルにつきましても、当市はおかげさまで企業立地が進んでおりますことから、各企業の皆さんがこういったカーボンニュートラルの取組をしていくのかということ、行政としての指針を示してほしい、それを基にしながら各企業も何ができるかということによって連携を図りたいということになっておりますので、本当にこれからの喫緊の課題だと思っておりますし、また、さっぽろ連携中枢都市圏にとりましても大きな課題だと思っています。

当市は、さっぽろ連携中枢都市圏の中でお役に立てることといえば、やっぱり新千歳空港だと思っていますので、今、新千歳空港の活性化をどうやって図るかということが本当に焦眉の課題であります。

ここに至りまして少し乗降客が戻ってきたようであります。それから、国際線も、この間、やっと第1便が再開したところであります、これからということになります。ご案内のように、新千歳空港は道内7空港の民間委託の核になる空港であります。民間委託が始まりました一昨年、我々は本当に民間の資金力とか発想力に大いに期待したのですが、その矢先にコロナが発生しまして本当に出鼻をくじかれた状況であります。30年のコンセッションの仕組みになっておりますが、その30年間の取組のマスタープランを私たちは審議をして、そして、それを了として民間委託をしたのですが、コロナの影響で、そのマスタープラン、いわゆる計画を後ろ倒しにせざるを得ないということで、私たち自治体もそれを了としながら今進めています。その間、資金繰りをはじめとして、経営が大変な困難を極めておりますので、私たち自治体は、資金繰りこそ応援できないまでも、何とか振興策をやらなければならないと思っています。いろいろなことをやっています。

今、やっと人の往来が多くなってきましたので、市民を対象にして空港利用者に商品券を発行して、市民の方々が旅行する、しないにかかわらず空港を利用するようなことを考える、あるいは、千歳市の市民で旅行に出る人については助成をする、全国から新千歳空港に来て泊まった方に対する助成もするというように、いろいろなことを考えています。

ただ、今日は北海道の北村さんも来ていますが、これは、やはり北海道の各地がそれぞ

れのビジネスや観光客を誘致することと連携しながら取り組まないと駄目だと思っています。それが証拠に、今、各地でどうみん割とかいろんな割引制度があって全国が競争状況にあるのです。そういうときには、やっぱり、全国に先駆けてといいますか、全国に勝って北海道に人を呼べるような仕組みを考えていかなければならないと思っています。今言いましたように各市町村単位でいろいろなことやっていますが、それに加えて、北海道とも連携して、北海道が一丸になって観光客、ビジネス客を呼び込む、その施策を講じることが大変大事なことだな、このように思っています。千歳市は空港の所在地という立場で頑張っていきたいと思っておりますので、また、皆様方との連携、ご指導、ご支援をお願いしたい、このように思います。

最後になりますが、パートナーシップ宣誓制度についてであります。

このことにつきまして、本市としては、残念ながら、まだ緒に就いたばかりであります。議会でもどう取り組むんだという質問がありまして、その答えとして今始めようとしているのは、ちとせ男女平等推進会議の中でこのテーマで議論をしながら方向性を模索していきたい、こういう状況にあります。ただ、言われるように、性的マイノリティーの方が偏見を持たれないような、そういう社会を構築していくことは当然大事なことで認識しておりますので、これから徐々に議論を深めていきたい、このように思っているところでございます。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

○司会（小角まちづくり政策局長） 山口市長様、どうもありがとうございました。

続きまして、恵庭市の原田市長様、どうぞよろしくお願いいたします。

○原田裕恵庭市長 恵庭市の原田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

さっぽろ連携中枢都市圏で様々な事業を展開していただき、その中心的な役割を担っておられます札幌市さん、本当にありがとうございます。

また、我々も、さっぽろ連携中枢都市圏の様々な事業に積極的にしっかりと取り組んでまいりたい、このように思っているところであります。

幾つか、お話をさせていただきます。

まず最初に、パートナーシップ宣誓制度についてであります。この制度については、私どもの市ではまだ十分な議論がなされているわけではありません。しかしながら、こうした方々の人権ということを尊重し、取り組まなければならないという認識を持っているところでありますので、こうしたご提案について、これから、札幌市さんあるいは江別市さんに学びながら、また連携しながら進めてまいりたい、このように思っているところであります。

次に、ガーデンフェスタ北海道2022についてであります。恵庭市をメイン会場に開催いたしましたガーデンフェスタ北海道2022については、皆様方に大変なご支援、ご協力をいただきましたことに、この場を借りまして心から感謝を申し上げる次第であります。

6月25日に開会いたしまして、1か月、30日間、目標は30万人ということで行ったところでありまして。おかげさまで34万人の皆様方にお越しいただき、会場のはなふるを見ていただきました。ここにおられる首長の皆様方にも来場していただきまして、本当に心から感謝を申し上げる次第であります。

また、会期内の7月13日には全国都市緑化祭が行われました。これは、この緑化フェアに付き物でありまして、緑化フェアの期間中には全国都市緑化祭が開催されて、皇族がお見えになるということでもあります。今回は佳子内親王殿下にお越しいただき、記念式典を行い、記念植樹をしていただきました。また、宮内庁に無理を言って、市内のガーデンといいますか、市民の方々が一生懸命つくった庭をじかに見ていただく機会もありまして、市民にとっては大変喜んだところでもあります。

また、7月24日の閉会式には、来年は4月に仙台で行われますが、知事が実行委員会の委員長でございますので、鈴木知事から仙台市長へその開催旗をお渡しいただいております。

また、期間中の様子であります。札幌市さんに出展していただいた自治体出展の花壇や、各市から提供いただいた花壇にて会場を飾っていただいたところでもあります。

また、去年のこの首長会議でプレゼンをさせていただき、広報をお願いいたしましたが、各自治体ではホームページあるいは広報誌を通じてPRをしていただいたほか、Instagramを活用したフォトキャンペーンの実施など、大変なご協力、ご支援をいただきまして、本当にありがとうございました。

せっかくこうしたフェアを行ったわけでもありますから、これから、北海道の緑と花の美しさ、すばらしさというものを、多くの道外の方、あるいは海外の方々に見ていただくような工夫をしていかなければならないのではないかと考えているところでもあります。

最後になりますけれども、今、東京オリパラなどで様々な事件が起きてイメージが非常によくない状況にあります。しかし、本来のオリンピック・パラリンピックというのは全く違うものでありまして、その目的、あるいはその役割というのは全く変わらないものがあります。札幌市さんがこれからその誘致に向けて頑張っていくということでもありますので、私どももしっかりと応援をさせていただきたいというふうに思いますし、この中枢都市圏でも、そうした応援の仕組みを考えることが必要なのではないか、このように思っているところでもあります。

以上、お話をさせていただき、私からの発表とさせていただきます。

ありがとうございました。

○司会（小角まちづくり政策局長） 原田市長様、どうもありがとうございました。

続きまして、北広島市の上野市長様、よろしくお願いたします。

○上野正三北広島市長 北広島市長の上野でございます。

札幌市様をはじめ、各市町村の皆様方には大変お世話になっておりますことに感謝を申

上げたいと思っております。

さっぽろ連携中枢都市圏の取組に関しましては、一部、K P I が未達成の事業もありますけれども、多くは達成済みということで、新型コロナウイルス感染症の影響もある中で着実に事業を推進しているところであるというふうに考えております。特に、まちの魅力の発信、住民サービスの向上などの点におきましては、行政区域の垣根を越え、連携中枢都市圏ならではの成果が出たものというふうに考えているところであります。

また、今年4月に開校されました公立夜間中学校につきましては、当市からも1名が入学させていただいておりますが、各市町村単独での設置はなかなか難しいものというふうに考えておきまして、圏域住民も利用できる仕組みにつきましては、教育機会確保の観点からも大変意義があるものというふうに考えているところであります。

このほか、パートナー企業との取組も進んでおきまして、こうした民間事業者との連携につきましては、圏域全体の活性化に寄与するものであるというふうに考えております。引き続き、着実に事業を推進していかなければならないものと考えておりますが、新型コロナウイルスの影響、コロナ下での広域連携の在り方を検討していく必要もあるものと考えておきまして、ウィズコロナ、アフターコロナに対応した事業の推進、事業の見直しなど、柔軟かつ的確な事業推進の判断が求められているのではないかと考えております。

今後の期待につきましては、圏域の周遊活性化に向けて昨年度に新たな取組が実施されましたが、本市のように観光資源が少ないまちにとりまして、圏域内周遊の中で一、二か所に立ち寄っていただく、そういう視点につきましては重要なことと考えておきまして、今後も、自転車を使った周遊等、より一層連携して取組を進めていきたいと考えているところであります。

また、今年度から関係人口の創出に向けた新たな取組の実施について検討されておりますけれども、本市におきましては、2023年3月に北海道ボールパークFビレッジが開業することになります。ボールパークを通じた圏域や道内全体の価値、魅力の向上、成長、発展につながる取組も実施していきたいと考えているところであります。新たな関係人口の創出に向けた取組に期待しているところであります。

最後になりますけれども、いつの時代も、大きな困難の中で新たなイノベーションを生み出す発想が必要であり、それによって価値が創出され、それが社会経済や市民生活を支える基盤になっているものというふうに考えております。こうした分野への支援についても、新たな産業、ビジネスが生まれる可能性を秘めておきまして、さっぽろ連携中枢都市圏として役割を持って進めていくことを期待したいというふうに思っております。

また、パートナーシップにつきましては、当市におきましても、今、議論の最中でありまして。今後、札幌市さん、江別市さんの事例を参考にしながら進めてまいりたいというふうに考えております。

以上であります。

○司会（小角まちづくり政策局長） 上野市長様、どうもありがとうございました。

続きまして、石狩市の鎌田副市長様、よろしくお願ひいたします。

○鎌田英暢石狩市副市長 石狩市の副市長の鎌田でございます。

今日は、加藤市長が他の公務でこの会議への出席がかないませんので、私のほうから本市の取組について若干お話しさせていただきたいと思ひます。

まず、さっぽろ連携中枢都市圏の各自治体の皆様には、日頃、本市のまちづくりに対してご理解、ご協力を賜り、改めて心から感謝を申し上げるところでございます。

初めに、資料4のさっぽろ圏巡って買って応援キャンペーンでございますが、本市の最多消費施設はコストコとなっております。昨年春のオープン以来、市内の買物の人の流れが大きく変わりました。私も会員として時々行っていますが、土・日の週末はもとより、平日でもひっきりなしにたくさんの方々が来店されており、これまでとは大きくさま変わりをしているところでございます。

このように買物による人の流れも多くなりましたが、観光目的で本市を訪れる方の数も戻りつつあります。今年6月のハマナスの花が満開の時期には、はまなすの丘公園周辺で環境と観光をコラボしたイベントを実施しました。2日間で予想を超える約5,000人の方に来場いただきました。また、この夏、昨年に引き続き市内6か所の海水浴場が開設され、また、ご承知かと思ひますが、石狩湾新港では3年ぶりにRISING SUN ROCK FESTIVALが開催されるなど、多くの皆さんに短い北海道の夏のひとときを楽しんでいただきました。コロナ禍におきましても、自然を楽しめる場所に恵まれている本市の強みについて改めて再認識したところでございまして、引き続き、本市の強みを生かしながら周遊観光の促進を図ってまいりたいというふうに考えてございます。

子育て環境の向上に向けた取組の推進では、人口減少あるいは超高齢化、少子化が深刻さを増している中、放課後児童クラブや子育て支援センターを併設し、中・高生の利用も想定した市内2か所目の大型児童センター「ふれあいの杜子ども館」が先月完成いたしまして、10月1日のオープンを目指して今準備を進めているところでございます。今後、子どもたちの居場所と子育て世代の交流の場を創出するための事業推進の新たな拠点として期待しているところでございます。

また、札幌市ホームページのさっぽろ連携中枢都市圏専用ページには、子どもや保護者がくつろぎ、交流の場であります「アートウォームカフェほわぼわ」や、多くの市民ボランティアによる絵本の読み聞かせに取り組んでいる石狩市民図書館を掲載していただいております。子育てを意識し始める若い世代に、子育てに関する遊び、体験、学びの資源を発信しているところでございます。

その他、脱炭素の取組であります。石狩湾新港地域内に電力需要の100%を再生エネルギーで供給することを目指す区域、REゾーンを設定し、再エネの地産地活による産業集積と地域脱炭素の両立を目指しています。さらには、市役所周辺の公共施設群の脱炭素化に向け、再エネの最大限の導入を図るなどの施策を進めておりまして、その評価として、

今年、環境省の脱炭素先行地域にも選定されたところでございます。また、厚田区では、道の駅及び周辺の学校などの公共施設に太陽光発電を使って製造した水素を燃料としたクリーンエネルギーを供給するシステムも稼働しているところでございます。

以上のように、本市のまちづくり戦略としては、人、経済、歴史の好循環により、いかに人口減少を食い止めるか、そして持続可能な都市経営を行うかということでありますので、さっぽろ連携中枢都市圏における一層の連携強化は大変重要なことだというふうに考えているところでございます。今後とも、各自治体の強みを生かして圏域全体の魅力の向上と人材や投資先として選ばれる地域づくりに本市としても積極的に取組を進めていきたいというふうに考えておりますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

最後に、ご提案のありましたパートナーシップ宣誓制度の自治体間の連携でございますが、先般、茨城県と佐賀県が都道府県間で初めて協定を結んだというニュースもございました。多様性を尊重し、様々な人が活躍できることが、持続可能な地域づくりには非常に重要であるというふうに考えております。

本市では、制度の導入についてはまだですが、本年3月に策定しました第4次男女共同参画計画でも、性的マイノリティーを含め、多様性を尊重する環境づくりのための意識啓発、あるいは人権教育に取り組むこととしているところでございます。

そういった意味も含めて、今回の提案の趣旨については十分理解しているところでございますので、今後、課題も含め、しっかり検討してまいりたいと思っております。今後とも、どうかよろしくお願ひします。

以上でございます。

○司会（小角まちづくり政策局長） 鎌田副市長様、どうもありがとうございました。

続きまして、当別町の後藤町長様、よろしくお願ひいたします。

○後藤正洋当別町長 当別の後藤でございます。よろしくお願ひいたします。

まずもって、秋元市長をはじめ、さっぽろ連携中枢都市圏の首長様、そしてまた関係の皆様には、日頃から本当に当別町のためにお世話になっておりますことに心からお礼を申し上げさせていただきます。

また、札幌市様におかれましては、市制100年ということで、本当に佳年を迎えられて、今後ともますます発展していただければというふうに思っております。

先ほどさっぽろ連携中枢都市圏のこれまでの事業につきましてご報告がありまして、当別町といたしましても、それぞれに参加させていただき、ご協力をさせていただいたところでもございます。

今日は、こういった場でございますので、今後のこの会議の方向性ということで、3点ほど検討をお願いしたいというふうに思っております。

一つは、先ほど江別市の三好市長からもお話がありましたけれども、それぞれの市、町、そして村が連携していく中で、どうしても壁になる部分があるということも理解をしておりまして、それを調整するための協議を十分にしていくことが大事かなと思っております。

それはなぜかといいますと、私のまちは札幌市の隣まちでありますので、やはり、住まわられている方、あるいは札幌に通勤・通学をされている方たちが、札幌市でできることがどうして当別町でできないのだとよく言われていまして、そういった意味では、都市と地方の格差をいかになくしていくかということが私の課題でもあります。

そういう中で、デジタルでできること、あるいは、デジタルでは全てはできないこと、いろいろありまして、例えば証明書の交付等につきまして、札幌市さんではどこのコンビニでも発行できるという状況にあります。うちのまちでは、今はまだそこまで行ってなくて、そこは来年度に整備させていただきたいというふうに思っております。

ただ、札幌市などに通勤されておられる方々の中には、諸手続の際に、行政が土・日も窓口を開ければよろしいのでしょうかけれども、それでもなかなか来ていただけない方もおられます。そこで、それぞれのまちに通勤している方もいると思いますので、そういう方々に対しては、先ほどのパートナーシップ宣誓制度ではありませんが、どこの窓口に行っても手続ができるようなシステムをこれからつくっていくことが大事なというふうに私は思っております。例えば、引っ越しするときなどは転出、転入のそれぞれの窓口に行くわけですが、マイナンバーカードを使用して転出する際に転入先の手続もできるようにするとか、技術的にいろんな問題があるかとは思いますが、そういったことを検討していただけるようにぜひお願いしたいと思います。

こうしたことはデジタルだけでは克服できないと思いますので、札幌市さんとも協議をさせていただいて、リモート行政窓口のようなところを設置していただくとか、今後、できればそういったことも進めていただければありがたいなと思っております。

2点目は、いわゆるご高齢者のためのフレイル予防という点ですが、例えば、今、デジタルを使った中でeスポーツとかいろんな取組があります。ご承知のとおり、心と体の動きが弱くなってきた状態をフレイル、虚弱と言われておりますけれども、その段階でいろいろな取組をしていくことが重要だというふうに言われています。そこで、フレイルに対応するような事業をやっていくとか、そうしたことに對して官民連携による広域的な取組を圏域として検討していただければなというふうに思っております。

最後に、3点目ではありますが、これまで国のほうからのいろいろな方針あるいは指導がありまして、ビッグデータの活用ということが言われておりました。しかし、それぞれの市町村で事業計画をつくった後、メディア等ではデータの活用がされているのですけれども、行政側ではそのデータを活用するということがなかなか進んでいないというふうに思っています。特に、小さな市町村では、予算面でも人的な面でもなかなかそういった取組をできない状況があるというふうに認識をしております。

そういった点で、例えば、広域でビッグデータを購入、分析して活用していただき、私どももそれを活用させていただき、あるいは、当別町だけではなくて、広域でどうなっているかという状況を客観的なデータとしてつかむことが大事なというふうに思います。そして、そのデータとそれぞれのまちの行政データを組み合わせて、コンバージェンスさ

せて新たな価値のあるデータを生み出し、それを行政に役立てていく取組が必要だというふうに思っております。そういったことができるようになれば、具体的、客観的に、観光のいろいろな政策をつくっていくとか、あるいは、どうやったらそれぞれのまちに関係人口を呼び込むことができるかとか、いろんな取組ができるのではないかなというふうに思っております。

以上、3点申し上げましたけれども、この圏域での取組の可能性を探って、できるものがあれば実施していただければありがたいというふうに思っております。

それから、先ほどお話がありましたパートナーシップ宣誓制度でありますけれども、当別町といたしましては、今後、それぞれ十分に検証させていただいて検討していきたいというふうに思っております。特に、価値観が多様化している現代においては、性的マイノリティーの方々の思いをしっかりと受け止めて行政運営をしていく大切さも十分に理解しております。

しかしながら、各地方の裁判所の判例等々を見ますと、札幌は大体寄り添うような判例だったと思いますが、例えば、大阪では同性婚の否定というのは合憲ですという判決も出ております。このことは宣誓制度そのものを否定するものではないというふうに私も理解しておりますけれども、そのように全国の裁判所の判例でも憲法判断が分かれているところなのかなというふうに思っておりますので、今後、十分に勉強し、検討させていただきたいというふうに思っております。

以上であります。引き続き、よろしく願いいたします。

○司会（小角まちづくり政策局長） 後藤町長様、どうもありがとうございました。

続きまして、新篠津村の石塚村長様、よろしく願いいたします

○石塚隆新篠津村長 新篠津村の石塚です。どうかよろしく願います。

随分時間がたっていますので、簡単に2点ほど申し上げたいと思います。

先ほど、山口市長さんからも地球温暖化に関する話がありました。うちの村は農業が基幹産業ですから、温暖化になるといいんじゃないかという話をする方もおります。しかし、北海道というのは、もともと冷涼な気候で病虫害の発生が少なく、安全でおいしい農産物が取れるというのが魅力でありました。ところが、この頃、やはり高温化してきて病虫害の発生も多くなりましたし、湿度も高くなっております。特に今年の冬の雪ですが、おかげさまで新篠津村は平年並みでしたけれども、雪質が随分変わってまいりました。昔はさらさらの雪でしたが、この頃は重たく湿った雪が降るようになって、除雪するにも時間がかかるようになりました。これらは、やはり温暖化の影響ではないかと私は思っております。海産物も、海水温が高くなったことで、北海道ではイカが取れなくなったとか、サンマも取れなくなっているということのようです。

農水省でも、みどりの食料システム戦略の中で、2050年までに農薬を50%削減する、肥料を30%削減する、有機栽培を25%拡大する、そしてゼロカーボンに向けて取り組んでいくということで、当然、私どもの農業でもこれからはこうしたことに取り組ん

でいかざるを得ないと思っております。

特に、水田というのは、私も最初は知らなかったのですが、結構な量のメタンガスが発生していて、牛のげっぷよりも出ているということですから、やはり、その削減に取り組んでいって、ゼロカーボンに近づき、何とか地球温暖化を防止したいという考えでありまして、これらがこれからの農業の大きな課題ではないかと思っております。

そのためには、やはり、スマート農業とか、今の新しいいろんな技術を身につけなければいけません。岩見沢市さんはある意味ではその先進地でありますので、いつも私どもの若い者たちが見に行ったりして勉強しておりますけれども、これからも、圏域の中で皆様方からいろんな情報を紹介してもらいながら農業に生かしていきたいなと思っております。

もう一つは、やはり観光です。北海道は食と観光ですが、この観光が今大変なことになっております。特に外国人観光客がほとんど来ていなかった状況でしたが、今年、やっと動き出しました。これは、もちろん経済的なお話もありますけれども、やはり、多くの方が北海道に来てくれて1次産品を食べていただくということが我々農業にとってもいいことですので、ぜひとも、これも引き続き第2期のビジョンの中に入れていただきたいと思えます。

今後とも、よろしくお願ひ申し上げたいと思えます。

以上でございます。

○司会（小角まちづくり政策局長） 石塚村長様、どうもありがとうございました。

続きまして、南幌町の大崎町長様、よろしくお願ひいたします。

○大崎貞二南幌町長 南幌町の大崎でございます。

まずもって、秋元市長をはじめ、圏域の首長の皆様には、日頃より様々な機会においてご指導、ご支援を賜っておりますことに、心から感謝とお礼を申し上げます。

先ほどビジョン概要の変更に関するところでご説明をいただきましたが、現在、本町において整備を進めております全天候型の子ども室内遊戯施設につきましては、来年5月のオープンに向けて順調に工事が進められているところでございます。本事業の推進に当たりましては、ビジョンへの登載をはじめ、圏域自治体の皆様のご理解とご協力をいただきましたことに、改めまして感謝を申し上げます。

施設がオープンした際には、本町の子どもたちだけではなく、圏域のたくさん子どもたちにいつでも安心して楽しめる遊び場として活用していただくとともに、来場者に対して圏域の魅力を効果的に発信するデジタルサイネージなどを設置し、圏域全体の周遊促進が図られますよう準備を進めてまいります。そして、子育て世代にさっぽろ圏域をアピールする上で、本施設がその一翼を担うことができると考えている次第でございます。

また、先ほどご報告をいただきましたLocal Innovation Challenge HOKKAIDOにおきましては、スタートアップ企業でありますあしたの寺子屋様と本町のマッチングを図っていただいたことにより、夏休み期間を利用して道内外の大学生が本町の中学生と触れ合う教育プログラム、まなび場を開催することができました。本町の子どもたちにとって、大学生

との交流の中で、将来への進路や大学生活などについて身近に考える貴重な体験をさせていただきました。

事業の実施に当たりご尽力いただきました事務局の皆様には、改めましてお礼を申し上げます。

また、パートナーシップ宣誓制度の自治体間連携につきましては、社会全体の理解促進に向けて、今後、検討、議論を深めてまいりたいと考えております。

現在は大変厳しい社会情勢ですが、それぞれの地域課題に対して不足する部分を補完し合うことができる圏域の仕組みを活用しながら、多くの人に選ばれるさっぽろ圏域としてますます発展することを期待いたしますとともに、我がまちにおいてもその努力を惜しまず行ってまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

私からは以上でございます。

○司会（小角まちづくり政策局長） 大崎町長様、どうもありがとうございました。

最後になりますが、長沼町の齋藤町長様、よろしく願いいたします。

○齋藤良彦長沼町長 長沼町の齋藤でございます。

札幌市さんをはじめとして、圏域の市町村の皆様には日頃から大変お世話になっておりますことに、この場を借りて感謝を申し上げたいと思います。

まず、ご提案のありましたパートナーシップ宣誓制度の関係ですけれども、本町では、今のところ、具体的な問合せというのはない状況でございます。ただ、性的マイノリティーの方々への理解を広げていくことというのは、私も大変重要だと考えてございます。今後、積極的に情報交換、連携等を進めるべきと考えておりますので、ご指導をよろしくお願いいたしたいと思います。

次に、ご報告の中にありました鳥獣対策の関係でございますけれども、ご承知のとおり、本町は農業のまちでございますので、これまでも鹿であるとかアライグマなどによります農業被害が大変多く発生しております。

また、去年はクマの出没もあったところでございまして、クマ出没時の情報共有というのは、先ほどもお話がありましたとおり、住民皆さんの安全にとっては大変重要なものでございます。ただ、ヒグマの生態等については非常に専門性が高いものでございますし、また、ヒグマの行動範囲は大変広いため、単独の市町村での取組では効果が薄いのではないかと考えているところでもございます。これからも、情報交換とか研修など、圏域での取組の推進にご期待を申し上げたいと思います。

最後に、全体的な期待等でございますけれども、先ほどお話しさせていただいたとおり、本町は農業のまちということで、食の魅力を生かした圏域での取組に大きく期待しておりますし、また、本町も何らかの形で貢献できるものと考えているところでございます。

また、近年は、農村景観とか環境を生かした企業立地、また、ワーケーションとかリモートワーク施設などの立地も見られるところでございます。全国的にも非常に認知度が高いさっぽろ圏でございますので、連携の強みを生かした取組を今後とも強力に進めていた

だいて、人口流出の抑制を図りながら経済成長に結びつけることが大事だと思っているところでございますので、この点もどうぞよろしくお願いいたしたいと思っております。

私からは以上でございます。

○司会（小角まちづくり政策局長） 齋藤町長様、どうもありがとうございました。

この意見交換の場では各市町村長様から大変たくさんのご意見を賜りまして、どうもありがとうございます。

この中で、これまでの取組に対する評価、あるいは、札幌市から提案させていただきましたパートナーシップ宣誓制度に対する各市町村におきます取組状況、お考え等をはじめ、今後のこの圏域での取組についてのご提案等もいただいております。

これらを踏まえまして、時間が大分経過しておりますが、秋元市長のほうから、全体の総括と併せて一言いただければと思います。

○秋元克広札幌市長 いろいろなご意見いただきまして、ありがとうございます。

1点目のパートナーシップの宣誓制度につきましては、各自治体さんの中でそれぞれ事情があり、また、市民であるとか企業の皆さんの理解の度合いというようなものにもやっぱり違いがありますので、それぞれの自治体の状況の中でご検討いただいているというふうに思っております。そういう意味では、この制度の導入の是非を含めまして、引き続きいろいろと情報交換させていただきながら進めていければというふうに思っております。

私どもも、先ほど申し上げたようにこの制度を利用している方が160組ほどおりますけれども、受けるサービスはやはりまだまだ限定的であります。企業によっても違いますし、例えば、病院などでも、家族と同じような形で扱うというふうに言っていた医療機関には限りがあったり、提供されるサービスの違いというのはいろいろございます。

ですから、これは、まだまだ、性の多様性というようなことに対する世の中の理解を促進していく一つのきっかけかなというふうに思っております。自治体間の連携についても、最終的な目標にはなりますけれども、そこに向けて、いろいろな取組について引き続き情報共有させていただきながら進めていければなど、こんなふうに思っております。

全体の事業に関しましては、皆様からそれぞれお話しいただきましたように、コロナ禍の中で観光面ですとか経済の関係で十分取り組めなかったこともございます。しかし、連携していく事業の方向性については一定程度の成果が出ているものもございますので、2期目に向けて、継続するものについては継続しつつ、先ほど来、DXにおけるビッグデータの活用だとか脱炭素の問題といった新たな地域課題というようなことについては、連携して進めていったほうがいいだろうというようなご提案もございましたので、今後、2期目のビジョン、計画策定に向けて、改めてまた実務者レベルでの協議を進めて議論をさせていただければというふうに思っております。

基本的には、今後、こうした連携の取組を継続してさらに発展をさせていくという方向についてはご理解をいただき、共有させていただいたのではないかとこのように思ってい

るところでございまして、引き続き圏域としての推進ということと一緒に取り組ませていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございます。

○司会（小角まちづくり政策局長） 皆様、どうもありがとうございます。

本日、本市が提案いたしました議題、あるいは、いただいたご意見も踏まえまして、引き続き圏域としての連携を推進していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、ここで、本日オブザーバーとしてお越しいただいております北海道の北村地域振興監より、本日の議論を通してのご感想等をいただければと存じます。

よろしく願いいたします。

○北村英則北海道総合政策部地域振興監 北海道地域振興監の北村でございます。

本日は、会議にお招きいただきまして、誠にありがとうございます。

また、皆様には、日頃から道行政の推進に当たりまして、また、この2年半におきましてはコロナ対策ということで、特段のご理解、ご協力を賜りまして、厚くお礼を申し上げます。

時間も押していますので、簡単にコメントさせていただきたいと思います。

ご案内のとおり、本道は、全国を上回るスピードで人口減少、少子高齢化が進行しておりますが、昨年には、札幌市も、いよいよ自然減が社会増を上回ったということで、人口減少局面に入ったところでございます。こうした中で、道としても、多様化する行政サービスを市町村が持続的に提供していくためには、やはり、広域的な取組、連携が一層重要になっていると認識してございます。

道内では、昨年度、旭川市と周辺8町で旭川大雪圏域連携中枢都市圏ということで広域連携に係る取組が進められているところでございます。

さっぽろ連携中枢都市圏の取組については、先ほど事務局のほうから実績報告がございましたし、また、ただいまは各首長様からも報告、ご意見がありました。例えば、岩見沢市長様から、さっぽろ圏巡って買って応援キャンペーンは、圏域を周遊する、圏域を知ってもらうことに大きく寄与したというお話、また、江別市長様、北広島市長様からは、夜間中学の取組への評価といったこと、恵庭市長様からは、ガーデンフェスタの取組について、まさに圏域が一丸となって本道の花、緑を発信したということで高評価しているということでございました。さらに、南幌町長様からは、子どもの室内遊戯施設の建設計画のお話があり、これは、まさにこういったさっぽろ圏の取組の一つとして位置づけられ、また国の事業として採択されたということで、大きな取組であったなというふうに思っております、圏域が目指すまちづくりに向けた取組が着実に進んでいることを再認識いたしました。

そして、千歳市長様からは、コロナで激減した新千歳空港の利用者についてお話がありました。新千歳空港は、この圏域だけではなくて、北海道の玄関口でございまして、道と

いたしましても、これから観光客を呼び込むために圏域と一緒にあって取り組んでいかなければいけないというふうに認識を新たにしたところでございます。

今後も、取組のさらなる深化、そして発展をご期待申し上げますとともに、優良事例につきましましては道内のほかの連携地域にも横展開していきたいというふうに考えてございます。

まさに、さっぽろ圏は、本道をリードする中核エリアであり、260万人の道民が暮らす国内最大の中核都市圏でありまして、令和3年度から道内における関係人口の創出に向けた取組が進められてきているところでございます。また、今、新型コロナウイルスの影響で、まさに地方への関心の高まりといったことが起きてございますので、この機を逃さず、北海道においても、関係人口の裾野拡大を図る取組をしっかりと進めていきたいというふうに考えてございますし、さっぽろ連携中核都市圏の事業とも連携して取組に厚みを加えていきたいというふうに考えております。今後ともよろしく願いいたします。

私からは以上でございます。

○司会（小角まちづくり政策局長） 北村地域振興監様、どうもありがとうございました。

6. 閉 会

○司会（小角まちづくり政策局長） それでは、最後となりますが、改めまして、札幌市長の秋元より、閉会のご挨拶をさせていただきます。

○秋元克広札幌市長 長時間にわたりご議論いただきまして、ありがとうございます。

先ほども総括のところで申し上げましたので、簡単にお話しさせていただきます。

この取組につきましましては、基本的には、今後も継続する方向で議論をさせていただきたいというふうに思っております。実務レベルでの協議を定期的に進めさせていただきますほか、皆さん方にお集まりいただいている首長会議も年1回程度は開催させていただいて、いろいろなご意見をいただきながら進めていければというふうに思っております。

いろいろな状況の変化、環境変化ということも出てくると思っておりますので、その都度、このビジョン、計画も柔軟に進めていけるように、引き続き皆様方のお力添え、ご協力をいただければというふうに思っております。

本日は、誠にありがとうございました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

○司会（小角まちづくり政策局長） 長時間にわたりまして、誠にありがとうございました。

以上で、第4回さっぽろ中核都市圏関係首長会議を閉会いたします。

以 上